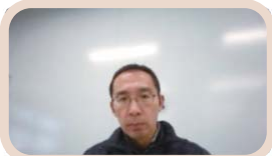


高専に関して 要望・意見交換

2024年2月2日(金)



岡本中央執行副委員長



友定中央執行委員



永井書記長



高等教育局専門教育課各担当

文科省会見

継続した予算確保、業務負担の軽減など

これからの項目に対して、文科省側から以下のような回答がありました。

① これまでの会見でも話し合ってきたように、文科省としても効率化係数に関する問題意識は共有している。来年度より迎える高専機構の独立行政法人としての第5期中期目標・計画においては何らかの対応・軽減が出来るように関係各所と引き続き協議していきたい

会見は主に以下の内容で実施しました。

① 効率化係数の廃止に向けた動向について

② 予算について

(1) 特別教育研究経費と基礎的な運営費交付金について

(2) 特別教育研究経費について

(3) 教職員の負担軽減に直結する施策と予算措置について

全大教中央執行委員会は2月2日(金)に文科省会見(高専枠)をWEB会議システムで実施し、文科省から高等教育局専門教育課が、全大教からは岡本副委員長、友定中執、永井書記長が出席しました。

と考えている。来年度の会見では良い結果が報告できるように努力していきたい。

② (1) まだ効率化係数の動向がどうなるか未定なので、予算についても不透明な部分もあるが、現在の政府予算案における高専機構の予算額は約629億円であり、昨年度と比べて1億円の増額となっている。このうち特別教育研究経費は約45億円である。

(2) 昨年度の補正予算でスタートアップ教育環境整備事業として大型の予算措置が行われた。これは所謂ハード面での環境整備を中心としていたが、来年度はソフト面の環境を整備していきたいと考えている。起業家人材を育成するための教育プログラムなどを構築していきたい。また、これまでも行ってきたGEAR(未来技術の社会実装教

育の高度化)やCOMPASS(次世代基盤技術教育のキャリアプログラム)について、半導体やAIに関する人材育成などについて取り組みを強化したいと考えている。

(3) 特別教育研究経費の中で高度化推進経費があり各高専の要望に応じ、スクールカウンセラーや部活動指導員などを雇用することが出来る。2024年度の予算ではコロナ関係の予算が縮小されたため、減額となっているがこれらについては高専において基盤的に必要な人材になってくると思うので、継続した予算確保に努めていきたいと考えている。

会見の最後に全大教から、中学校において課外活動の地域移行が進められる中、高専においても課外活動が教員への大きな負担となっているの、軽減策を検討して頂きたい事と、高専の専攻科の設置基準について、教育機関として相応しい設置基準を整備して欲しいという要望を伝えました。

(高専協議会事務局 友定 将和)

全大教新聞

2024年3月10日

第417号

【発行所】
全国大学高専教職員組合
(略称・全大教)



【PDF版(全面カラー)】
http://zendaikyo.or.jp/?page_id=107

【電話】03-6802-4250

【HP】<http://zendaikyo.or.jp/>

【所在地】〒110-0012
東京都台東区竜泉
2-20-15 都築ビル2階

* 組合員の購読料は組合費に含まれています(一部30円)

今月の紙面

- ② 春季・新歓期 合同地区別単組代表者会議
(東北・九州、関東・信越) 2月18日
- ② 日本学術会議の法人化案に対する見解発表
論壇「スポーツがまちを変える」
- ③ 岡山大学学術研究院教育地域推進教授
高岡敦史
- ③ 職場のQ&A「病欠やケガで仕事を休む制度」

- ④ 単組からのレポート
・東京都立大学
「法人化以来の給与格差解消」
- ・山口大学
「第56回定期大会を開催！新執行部発足」
- ・弓削商船高等専門学校
「人手不足の時代」

新採用者へ、隣のあの人へ、久しぶりに会ったあの人へ 組合の大切さを伝えて加入を呼びかけよう！

組合は、教育・研究・医療の充実と、労働条件の改善と、そして笑顔の職場づくりを願い、活動しています。



充実

教育・研究・医療

大学・高専等をとりまく状況は目まぐるしく変化しています。教育・研究・医療の充実への期待は高まっています。教育・研究・医療の現在と将来について考え、社会に発信し、予算や政策に関する要請を行っています。

より良い

労働条件

私たちの労働条件は組合と法人との交渉で決まります。組合は仕事での困りごとや要望について仲間と改善策を話し合い、それをもって法人と話し合います。一人ひとりの組合加入が、より良い労働条件をつくる大きな力になります。

笑顔の

職場づくり

同じ目線で語り合える同世代、悩みを聴いてくれる先輩、さまざまな職種や専門分野の人たちがいます。せっかく大学で働いているのに交流しないなんてもったいない。笑顔の職場はきっと毎日を充実させます。